

[評価について] A=成果が見られた B=ふつう C=改善が必要である

		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、 1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨を目的とする。		「心あらたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が、安心して学習し、社会の一員として生きる力を育成する。			
		今年度の重点目標			
		1 いじめや暴力を絶対に許さない安心・安全な学校をつくる。 2 社会人基礎力（特に挨拶できる力）を育てる。 3 生徒の力を引き出す「わかる授業・伸ばす指導」を工夫し、学力の定着・伸長を図る。 4 地域に開かれ、地域とつながる学校をつくる。			
分野	重点項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策
安心安全な学校づくり	規範意識の醸成	1 生活アンケートや諸調査を通して、生徒の内面の理解に努めるとともに適切な生徒指導ができたか	B	職員間でアンケートなどで得た情報共有し、生徒支援ができた。継続支援が必要であった。	生徒の発信に、丁寧に耳を傾けていく。保護者とも連絡を密にしていこう。
		2 盗難や交通事故、人間関係トラブル等から身を守る行動をとれるように指導できたか	B	車と接触する交通事故が増えてしまった。トラブルは起きてしまった。	スクエアドストレイトを外部機関に申し込む。トラブル後のケアを丁寧に支えていく。
		3 「自分から挨拶」「話を聴く」「話を聴いてもらえる」ことを通して、受容感や所属感が高められたか	B	教育相談室や保健室が生徒の安心できる場所として確立されている。教員からの能動的な声掛けにより、生徒の安心感が担保されている。	ソーシャルスキルトレーニングによる成果に負うところは大きい。次年度以降も学校全体で計画を立て実施し生徒の居場所づくりに寄与したい。
	学校生活支援	4 いじめ・体罰の根絶に向けて定期的に確認ができたか	B	アンケートや面接を通して、定期的に点検ができた。経過観察が必要であった。	アンケートや面接の時間を今年度並みに計画する。職員間の情報共有を迅速に密にしていこう。
	5 S S Tや課題研究の発表活動を通して、コミュニケーション力の向上に取り組めたか	A	SSTの計画的な実践とICTを活用し他SSTの実践により、生徒の発信力の向上につながった。	本校を特徴づけるSSTの実践は、生徒自身も手ごたえを感じている様子が見られた。課題研究と合わせさらなる充実を努めたい。	
社会人基礎力育成	自主活動の充実	6 活動計画を立て、生徒が生徒会活動に積極的に係る事ができたか	B	コロナ以後の、新しい生徒会活動を模索し、一つの形を示すことができたが、情報発信・共有の遅延などに課題もあった。	生徒会活動のタイムリーな発信を行うため、校内・校外向けの担当者(生徒・職員)を明確にする。
	キャリア教育の推進	7 進路ガイダンスや体験学習により生徒のキャリア意識を高める事ができたか	A	進路ガイダンス、体験学習ともに対面により実施ができ、生徒はそれぞれの体験を通じて、キャリア意識を醸成することができた。	ホール会場が使えずオンラインとなり、十分な効果がえられない場面があった。実施時期も含め係間での調整や実施内容を検討したい。
	進路指導の充実	8 進学や就職に関わる情報を適切に伝える事ができたか	A	年次に応じて情報発信ができた。懸念だった3修生と4修生の指導のへだたり(3修と4修間での内容差)について補講を実施することができた。	情報発信を通して、さらに生徒側の意識が向上するよう、進路講演などを企画したい。学校説明会、企業説明会などへの参加も強く促したい。
伸ばす指導業	わかる授業の実践	9 生徒による授業評価やユニバーサルデザインを意識した授業づくりができたか	A	電子黒板を用いた授業により、見やすさの工夫が図られた授業が増えたり、生徒による授業評価でも、わかりやすいという評価を多数得た。	学習のねらいやゴールの明確化、指示、発問の工夫など更なる工夫を図りたい。
		10 生徒の実態を踏まえてカリキュラムの研究や授業改善を進める事ができたか	B	各教科の授業実践について共有する機会を複数回もち、他の教員、教科の工夫を知ることができた。探究的な学びの実践が課題。	生徒が能動的に考え、生徒同士で話し合い、解決に導くような学習を単元ごとに取り入れるようにする。
	学習指導の工夫	11 基礎学力テスト・ドリル学習等の取組を通して基礎学力の充実を図れたか	A	ドリル学習により学習事項が定着し成果をあげている生徒が一定数いる。基礎学力テストの結果活用の促進が課題。	進路係や学び向上委員会を中心に、基礎学力テストの情報共有を図るしくみづくりをする。
		12 個別指導や補習・模試などにより上位層の学力を伸ばす事ができたか	B	夏季休業はじめに希望者補習を実施した。講座によって習熟度に応じたり、資格取得を意識した内容で進めた。低学年での模試を実施した。	個別指導を充実させるだけでなく、上位層を顕在化させ、それに対する集団的な指導も必要である。希望者補習を効果的に実施したい。
		13 1人1台端末を基盤とした授業展開を取り入れるとともに、ICT活用を十分行う事ができたか	B	教員による電子黒板の利用は進んだが、授業における生徒のタブレット利用は一部の教科にとどまっている。	教員の抵抗感をなくすため、校内で研修会をもち、タブレットの使用例を情報共有する機会をもつ。
開かれた学校づくり	情報発信	14 公開授業や学校説明会を工夫したり、公式ホームページなどを通じて、本校の特徴を十分に伝えられたりできたか	B	公開授業や学校説明会の参加者からは、おおむね好意的な意見が寄せられた。HPによる情報発信に更なる工夫を図りたい。	ホームページについては、掲載内容の見直しを図り、定期的にアップできるようにする他、見やすいレイアウトにする等の工夫を図る。
		15 街路清掃等の実施により地域の環境美化に貢献できたか	A	生徒が積極的に活動に参加し、ゴミを沢山拾った。地域住民・自治会などから高く評価され、メディアにも取り上げられた。	地域の美化活動への関心を高め、ゴミを減らす取り組みを継続させる。地域の方と共同作業を行うなど結びつきを強めたい。
	地域連携	16 地域の人材や教育資源を活用することができたか	A	教科学習、SST、進路ガイダンス等で地域の方を講師に招き、地域や働くことについて学んだ。生徒の成長に多くの大人の支えが必要。	継続して地域人材を活用する。地域の資源も積極的に教材として取り入れていきたい。